

■ 中間考査に向けて

10月7日(月)から10月10日(木)まで2学期中間考査が実施されます。少しずつ準備を進めていますか? 1年生も高校生活にすっかり慣れてきたことと思いますし、学習の進め方も分かってきたことでしょう。しっかり準備をして臨むようにしましょう。3年生は9月11日(水)に推薦委員会が行われ、大学等における指定校制推薦や公募制推薦での受験者が決定しています。原則として、「3年生の1学期までの成績(評定平均値)」が各学校や企業に送られて行きますが、最終的に成績等が提出されたものと著しく異なる場合には、志望校や企業側で何らかの対応をされることもあり得ます。したがって、「もう大丈夫」と油断することなく準備をしてほしいと思います。2年生も来年の今ごろには進路活動が本格化しています。「評定平均値」が気になるケースも多くなることでしょう。そのときになって、「早くからしっかりと取り組んでおけば良かった」と後悔することのないよう日頃から授業や家庭学習にしっかりと取り組んでおくことが大切になります。よく自覚してほしいものです。



■ 就職希望者へ

3年生の学年回答でもお伝えしていますが、就職希望者で内定を得ている者は、お礼状と就職承諾書(※内定通知に同封されている場合にはその様式を用い、同封されていない場合には学校で作成した様式を担任の先生もしくは進路指導部から受け取ってください)を送るようにしましょう。企業によっては、その他にも提出しなければならない書類がある場合があります。提出期限があるはずですから遅れないように投函してください。分からないことがあれば、早めに担任の先生や進路指導部に質問するようにしましょう。



採用試験の結果を見ていて、学力は普通程度でもコミュニケーション力が高いか否かが結果に反映されていると感じます。元気の有無も見られているようです。つまり、「元気があり、挨拶や返事がしっかりとできること」が新入社員に求められる最低条件として挙げられます。特に製造業においてはその傾向が強いようですので、1・2年生で希望している人は部活動等において、自覚的に鍛えてください。

就職においてはもう1つ、欠席・遅刻・早退が少ないことも重要なポイントになります。今年度の3年生も比較的好調で多くの生徒が第1志望の企業から内定を頂戴しています。内定者は今後も油断することなく充実した学校生活を!

■ 指定校制推薦希望者へ

大学等に学校推薦型の指定校制で進学を希望している生徒には、基本的に「指定校用」の要項を配付しています。学校により異なり、紙ベースの要項はなく、大学等のホームページにアクセスして、要項を確認したり、志望理由書や推薦書などの様式をダウンロードしたりするケースも見られますので、自分の志望校についてよく把握しておきましょう。紙ベースの要項を配付している学校の中には9月下旬とか9月30日以降に配付とかいうケースも見られ、まだ配付できていない学校もあります。どんなに遅くとも、中間考査明けくらいを目途に、9月11日（水）の推薦委員会で決定している指定校制での受験希望者全員に要項の配付を完了できればと考えています。早く欲しい生徒もいるかと思いますが、もう少しお待ちください。



なお、志望校の出願書類をよく確認するようにしましょう。事前課題の提出を求められるケースもありますので、計画的にしっかりと準備を進めていくことが大切になります。面接の練習なども早くから始めておくと良いでしょう。

ちなみに、推薦書は担任の先生が記載します。「自分で書くのですか？」という質問が多く見られますので注意してください。

■ 公募制推薦希望者へ

公募制推薦を希望している生徒もかなりいますが、指定校制とは要項の取り扱いが異なるケースが多いですので気をつけましょう。指定校制の場合は先にも記したように指定校制専用の要項を取り寄せなければならないケースが多いのですが、公募制の場合には、一般入試などと同じ要項に志望理由書や推薦書が綴じられているケースが多いです。学校によっては、やはりホームページから志望理由書や推薦書をダウンロードしなければならないケースもあります。よく確認して余裕を持って書類の準備に取りかかりましょう。なお、推薦書は指定校の記事に記載した通りです。自分で書かないように注意してください。

■ 東日大・いわ短への進学希望者へ

東日本国際大学もしくはいわき短期大学への進学を考えている生徒は、内部進学用の要項がありますので、進路指導室に受け取りに来てください。今年度は両校合わせて、現時点で30名の希望者がいるはずですが、要項を受け取りに来ている生徒はまだ20名程度です。早くからしっかりと準備を進めて受験に臨みましょう。なお、東日本国際大学といわき短期大学の希望者を対象に進路指導部では、集団での面接練習を直前に組む予定です。最後の確認として臨むようにしてください。

■小泉凱斗先生の話

1学期をもって本校を退職された英語科の小泉凱斗先生は、離任式でも話していましたが、本校の卒業生です。筆者は彼が高校3年生のときに授業を受け持っていて、話をする機会が多く、在学中からよく知っていました。やはり、離任式のときにそれとなく触れて



いましたが、大学進学を希望していたものの、公募制推薦などでなかなか思うような結果を得られず悩んでいた彼に、筆者は「今は変化が激しい時代だから、浪人は勧めない。早く次のステップに進み新しい目標を見つけてがんばった方が良い」というような話をしたことはよく覚えています。その後、彼は本校を卒業した後に募集していた大学を受験することにしました。その大学に合格した彼はとてもホッとしていたように見えました。基本的に大学では英語を学びたいと考えていて、ネイティブの先生の授業も豊富にあり、結果的にはその大学に行って良かったと感じているようです。ちなみに、成績が良かったり、熱心な学生と受けとめられたりしていたからか、大学のパンフレットに登場することもしばしばありました。「小泉君の進学した大学だな」と思って、パンフレットを手にとって眺めていて、彼の写真が掲載されているのを見つけたときに筆者は喜び、思わず微笑んでいました。

英語科の教員を確保したいと考えていた本校では、3年前に教育実習に来ていた際に、その取り組みの様子などから、ぜひ本校に教員として戻ってきてほしいとアプローチしたようです。彼自身もまたとないチャンスと受けとめて快諾したと聞いています。しかし、赴任すると、ベテランの先生や英語科で主任を務めていた先生が個人的な事情で退職され、教員2年目でさまざまな仕事を任されるようになりました。それを少しずつしっかりとこなし、授業も堅実に進めていて筆者は素晴らしいと感じていましたし、生徒諸君からも信頼を得ていたようです。教員として日々成長していった彼でしたが、そんな中、外国で英語を活かして生活してみたいという考えも少しずつ湧き起こってきたようです。昨年の春先辺りから、そのような話をし始め、相談されることが多くありました。「学校としては、とても惜しく残念だと思うけれども、自分の人生だから、後悔しないように自分のやりたいように決断したら・・・」というようなことを何回か話したのではないかと思います。

予定通りであれば、小泉先生は9月21日(土)にカナダに向けて旅立ちました。新たな生活に向けて準備を進めているのではないかと思います。これまでとは異なり、不安定な立場になりますが、出発の数日前に会ったときにはワクワク感であふれているように感じました。彼はお父さんの仕事の関係で10代の数年間をヨーロッパで生活した経験もあり外国生活には慣れているようですが、いずれは帰国して日本で仕事をしていくことを考えているようです。再度教員を目指すのか、新たな仕事を見つけるのか、現時点では未定とのこと。みなさんも若いうちにさまざまなことにチャレンジしてってください。

■ 半谷静香さん、パラリンピック柔道・銀メダル

パリ・パラリンピックの柔道女子 48 キロ級（全盲）で本校卒業生の半谷静香さんが銀メダルを獲得しました。半谷さんが本校に在学していたころは、保健体育科に所属して柔道などの競技に取り組んでいた女子生徒もいましたが、半谷さんは普通科に所属して部活動に励んでいました。半谷さんは 5 期生で、筆者は 1 年生のときの「現代社会」の授業を担当していました。目が不自由そうな印象がありましたが、筆者からそのことに触れることはありませんでしたし、半谷さんからも特別何か申し出があったりはしませんでした。20 年ほど前になりますが、授業中の様子も部活動中の様子も印象に残っている一人です。



現在、県南地区の県立高校に家庭科の教員として勤務している星利恵さん（旧姓・先崎）は本校の 3 期生で半谷さんの 2 年先輩に当たります。星さんは小野町から毎日 JR で通学し、柔道部で半谷さんたちと汗を流しました。現在赴任している高校に柔道部がなく、たまたま卓球部顧問になったそうです。今年度で卓球部顧問になって 4 年目になりますが、3 年前に猪苗代町で開催された福島県高等学校体育大会卓球競技の監督会議後、大会役員として前の席に座っていた筆者にニコニコしながら、「先崎です。覚えていますか？」と声をかけてきて、卓球部顧問になった経緯を話してくれ、以来、県大会で会うたびに長話をしています（※最初に声をかけられたときにはコロナ禍でマスクをしていてよく分かりませんでした。すぐに先崎さんと認識できました）。2 週間ほど前になりますが、9 月 14 日（土）に全日本卓球選手権福島県予選会が福島市の福島トヨタクラウンアリーナで開催されました。そのときもいろいろと話をしました。その中で、半谷さんの話も出てきて、「パラリンピックで銀メダルを獲得後、電話がかかってきてすごく喜んでいました。今回で 4 回目の挑戦でしたけど、きっと次も出場を目指すのではないですか」と予想していました。

9 月 24 日（火）に半谷さんが来校し、パリ・パラリンピックで銀メダルを獲得したことについて報告会が行われました。筆者は中学 3 年生の授業があったため、様子を見に行くことはできませんでしたが、翌日、進路指導室に来ていた柔道部の 3 年生の男子部員数名が、「銀メダルを見せてもらい大きな刺激を受けた」と話していました。ちなみに、9 月 25 日付読売新聞の地域版に柔道部女子部長の澤島陽和さんのコメントが掲載されていました。「（半谷さんについて）ここに来る度にパワーアップしていて本当にすごい人。いつも前向きな言葉で勇気づけられている」。本校に在籍する生徒諸君が目標とすることは人それぞれでさまざまですが、偉大な先輩を誇りに思い、少しでも勇気をもって前に進んでもらえたら、教員としてこれ以上にうれしいことはありません。

文責：清水聖（進路指導主事）